

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称) 鈴与株式会社 小牧物流センター 2号棟	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市郷西23番1外43筆	構造	S造
用途地域	指定なし、法22条地域	平均居住人員	60人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年5月 予定	評価の実施日	2022年3月29日
敷地面積	29,900 m ²	作成者	寺田穂
建築面積	6,527 m ²	確認日	2022年4月1日
延床面積	19,119 m ²	確認者	近藤誠治



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み #DIV/0!

③上記+②以外の #DIV/0!

④上記+ #DIV/0!

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 2.7

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <div style="text-align: center;"> </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>29.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	29.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	29.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: center; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <div style="text-align: center;"> </div> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体	
			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.5	
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1	室内騒音レベル		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能		-	-	-	-	3.0	-	-	
2	界壁遮音性能		-	-	-	-	3.0	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-	-	
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	外皮性能		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3	ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1	昼光率		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	方位別開口		-	-	-	-	3.0	-	-	
3	昼光利用設備		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.2 グレア対策										
1	昼光制御		5.0	-	-	-	3.0	-	-	
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.2 換気										
1	換気量		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	自然換気性能		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3	取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	
2	喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能					0.43				3.2	
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
3	バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	3.0	-	-	
2	リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	
3	内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	
2	維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数		0.3	3.3	0.33	-	-	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	3.0	0.23	-	-	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08	-	-	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15	-	-	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-	-	
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備		0.1	2.8	0.19	-	-	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
3	電気設備		3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	
4	機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	

耐用年数の長い配管とすることで、メンテナンス性に配慮した。

3 対応性・更新性				0.4	3.3	0.48	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		十分な階高を確保した。 空間のフレキシビリティを考慮し計画した。	-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	2.6	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	2.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	2.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	2.0	0.30		-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30		-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	2.9
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=		3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEI=		3.0	-	-		-	-	-
4 効率的運用				1.0	3.0	1.00		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	2.9
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			節水型の衛生機器を使用し、節水に努めた。	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1		雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67		-	-	
2		雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63		-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	-	3.0	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	内装材と設備が錯綜しないよう整理し、設備更新が可能なよう配慮した。	3.0	5.0	0.24		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	2.6	0.22		-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	2.5	0.68		-	-	
1		消火剤		-	-	-		-	-	
2		発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50		-	-	
3		冷媒		3.0	2.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-		-	-	-
2 地域環境への配慮				0.5	2.4	0.50		-	-	2.4
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.7	0.25		-	-	
1		雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25		-	-	
2		汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-	
3		交通負荷抑制	独自	敷地内外に十分な駐車・駐輪スペースを確保し、負荷抑制も配慮した。	4.0	0.25		-	-	
4		廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.5	3.1	0.50		-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1		騒音	独自	-	3.0	1.00		-	-	
2		振動	独自	-	-	-		-	-	
3		悪臭		-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-	
1		風害の抑制		-	3.0	0.70		-	-	
2		砂塵の抑制		-	3.0	-		-	-	
3		日照障害の抑制		-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20		-	-	
1		屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	4.0	0.70		-	-	
2		屋外の建物外壁(による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)鈴与株式会社 小牧物流センター 2号棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				N. A
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17	外構緑化: 29.6%/建物緑化: 0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 鈴与株式会社 小牧物流センター 2号棟

計画上の配慮事項	
総合	耐久性・経済性・メンテナンス性を考慮した物流施設
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	内外装ともに防汚性の高い仕上げ材を用いることで、メンテナンス性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地境界部に外構緑化を行い、緑量を確保することで敷地内環境及び周辺環境へ配慮した。
LR1 エネルギー	開口部を必要最低限とする等し、建物外皮の熱負荷を抑制するよう配慮した。
LR2 資源・マテリアル	内装材と設備が錯綜しないよう整理し、設備更新が可能なよう配慮した。
LR3 敷地外環境	光害や交通負荷を抑制し、周辺環境へ配慮した。
その他	